

# 友情は国境をこえて

## —南米式



①張吉憲 ②中国 ③ニコニコ堂  
 「自転車の荷台に積んだパスポートの入ったカバンを落としてしまい、困り果てて警察署へ行くと、なんと届けてあったのです。私は涙が出そうになるほどうれしかった。熊本の人々の親切は忘れません。帰国後は、日中の各方面の交流のために力を尽くしたいと思います。」

①SONOMI・TAKESAKI ②パラグアイ ③熊本ボランティア協会  
 「人形劇サークル『熊本だけのこ会』に入り公演に出ました。練習の時はきつかったが、友達がたくさんできました。本当に入ってよかったです。もう熊本にずっといたい気持です。」

①JOANE・TERUKO・SAKAMOTO ②アメリカ ③熊本短大保育科  
 「熊本は祖父のふるさと。一度来たかったが、願いがかなってうれしい。現在の熊本というか日本は祖母から聞いていたのとは大違い、びっくりしました。でもみんな親切でした。本当にありがとう。」



①FUSAE・NONAKA ②アルゼンチン ③熊本市民病院  
 「両親は熊本県出身なので、日常はスペイン語と日本語を混ぜて話してましたが、日本に来てみて、日本語のむずかしさをあらためて感じました。日本は伝統的な古い面と、技術の発達が生んだ新しい面と2つの要素を持っていますね。」



①FUAN・ALBERTO・OGATA・MI ZUMOTO ②ペルー ③熊本大学工学部(応用電子工学)  
 「国鉄特急列車の中で、車掌が間違えて料金を余分に受け取っていたと言って、お金を返しに来た時、本当にびっくりしました。日本の人は正直ですね。帰国したら、熊本で学んだ電子工学の技術をはじめ色々伝えたいと思います。」

①氏名 ②国籍 ③研修・留学先

# バーベキュー「シュハスコ」



白川河川敷に集まった留学生・研修員とその友達、そして県関係者

「シュハスコ」とは南米式バーベキューのこと、2月26日土曜日の昼下がり、このシュハスコパーティが県費留学生や研修員により、県民との親睦をはかり、これまでの協力に対する感謝の意を表するために開かれた。昭和57年度の研修員は8人、県費留学生は5人の計13人で、彼らは、必要な技術の習得及び熊本県民との親睦を深めるために開発途上国等からやって来ており、3月末には、それぞれ研修や勉学を終えることになっている。みんな日本語がよく話せ、新しくできた熊本の友達と歓談したり、ソフトボールをしたりして、友情の輪が広がった。シュハスコパーティに国境はなかった……。